

校長つうしん No.28

Sapporo
Odori

2017.10.30

鈴木 恵一

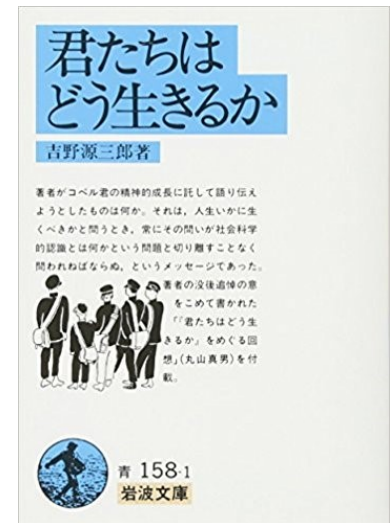


君たちはどう生きるか

『君たちはどう生きるか』 / 吉野源三郎

中学校2年「国語」の教科書に掲載されたことをきっかけに再注目され、最近ではマンガ版も出版されています。スタジオジブリもアニメ映画化する予定だそうです。私自身は中学生の頃に読んだ記憶があります。中学二年生のコペル君の日常、そして、おじさんがコペル君に宛てた手紙に紡がれている数々の言葉は、大人になった今も忘れてはならないことがたくさんあります。80年たった今も読み継がれ、^つ勇気、いじめ、^{めいぢよ}貧困、格差、教養、今も昔も変わらない人生のテーマに^{しんし}真摯に向き合う^{めいぢよ}名著といわれています。

日中戦争から太平洋戦争にかけて言論・出版の自由が制限されていました。そんな時代

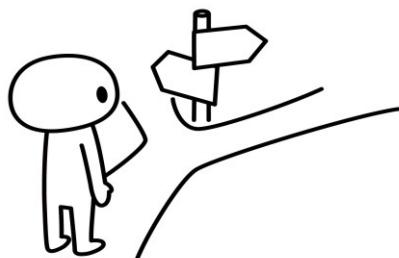


背景のなか、せめて少年少女たちだけには、差別や^{あらず}争いのない平和な社会、真の心の自由を失わないでほしいとの思いから^{しっぴつ}執筆された作品です。

吉野源三郎は、編集者、児童文学者、評論家、^{ほんやく}翻訳家、反戦運動家、ジャーナリストなど、さまざまな肩書きを持っています。

作品の一部を引用してみましよう。

……しかし、自分たちの地球が宇宙の中心だという考えにかじりついていて、人間には宇宙の本当のことがわからなかったと同様に、自分ばかりを中心にして、物事を判断してゆくと、世の中の本当のことも、ついに知ることが出来ないでしまう。僕たちは、できるだけ学問を^{おさ}修めて、今までの人類の経験から教わらなければならないんだ。



……人間の本当の^ね値打ちは、いうまでもなく、その人の着物や住居や食物にあるわけじゃあない。どんなに立派な着物を着、^{ごうせい}豪勢な家に住んでみたところで、^{ばか}馬鹿な奴は馬鹿な奴、^{かとう}下等な人間は下等な人間で、人間としての値打がそのために^{あがり}あがりはしないし、^{こうけつ}高潔な心を持ち、立派な^{けんしき}見識を持っている人なら、たとえ^{びんぼう}貧乏していたってやっぱり^{そんけい}尊敬すべき^{えら}偉い人だ。……人間の一生のうちに出会う一つ一つの出来事が、みんな一回限りのもので、二度と繰り返すことはないのだということも、——だから、その時、その時に、自分の中のきれいな心をしっかりと生かしてゆかなければいけないのだということも、あの思い出がなかったら、ずっとあとまで気がつかないでしまったかも知れないんです。

……人間である限り、^{あやま}過ちは誰にだってある。そして、良心がしびれてしまわない以上、^{おか}過ちを犯したという意識は、僕たちに苦しい思いをなめさせずにはいない。しかし、コペル君、お互いに、この苦しい思いの中から、いつも新たな自信を^く汲み出してゆこうではないか。

さて、君はどう生きますか？

生活していくうえで、いろいろな困り事、悩み事は大小の差こそあれ、誰しもあります。それを解決するためにどうしたらよいか、自分なりに問いを立てて答えを見つけなければなりません。

さまざまな問いに答えていくことにこそ人生の意味があるのでしょう。

生きることは諦めないこと、生きることは考えること、生きることはチャレンジし続けること、生きることは楽しむこと、生きることは幸せをつかむこと…「生きることは……」に続くあなたの言葉を考えてみてください。